

会議録

会 議 名	第8回八王子市再生可能エネルギー導入検討会
日 時	平成25年8月26日(月) 午後 6時30分～ 8時55分
場 所	八王子市役所 本庁舎 501 会議室
出席者氏名	委 員 本藤祐樹、白井信雄、中島裕輔、今井雅晴、栗田和仁、富永一夫、奥田さが子、三浦すみえ
	事務局 (説明者) 八王子市：諸角環境部長、佐藤環境政策課長、平井環境政策課主査、谷勝環境政策課主事 環境自治体会議環境政策研究所：遠藤はる奈、山下剛史
欠席者氏名	安藤広和、遠藤尚孝
議 題	(1) 再生可能エネルギーの導入方法について (2) その他
公開・非公開の別	公開
非公開理由	—
傍聴人の数	4名
配付資料名	次第 資料1：八王子市再生可能エネルギー導入検討報告書(案) 資料2：長池公園を核とした複合プロジェクト 参考1：長池公園でのプロトタイプの提案 参考2：長池公園 再生可能エネルギーシステム構築提案 八王子市再生可能エネルギー導入検討報告書案に関する意見
会議の内容	<p>◆開会にあたっての挨拶 【本藤座長】 第8回の検討会を始める。 (事務局より出席者、配付資料の確認。写真について公開の了承を得た。)</p> <p>◆議事 (1) 再生可能エネルギーの導入方法について (事務局より資料1、2に従い説明) 【事務局(平井)】 説明した報告書案について、本日欠席の安藤委員より意見をいただいている。プロトタイププロジェクト名について2点。1点目は「学校を地域の核として展開」という名称だが、学校だけでなく、広く公共施設全体を視野に入れた方がよいのではとのこと。2点目は「既存の地域冷暖房に追加」という名称について。これは地域冷暖房だけでなくその他の事業展開も見据え、「既存の地域冷暖房や再開地区での展開」という内容ではどうかとのこと。最後に、資料編として、24年度の報告書に掲載されていた参照事例を全て載せたらよいのではという提案。こちらについてはページ数の関係で難しい。参照事例は各検討会における題材として報告書に掲載されているので、そちらで対応させていただきたい。 【本藤座長】 では、報告書案について検討をしたいが、まず資料で意見をいただいた、富永委員、中島委員、そして奥田・三浦両委員からご説明をいただきたい。 【富永委員】 (配付資料「参考1」について説明) 【中島委員】 (配付資料「参考2」について説明) 【奥田委員】 (当日配付資料「八王子市再生可能エネルギー導入検討報告書案に関する意見」について説明) 【三浦委員】 1点付け加えたい。報告書案34ページに「時間帯別電灯契約については、契約の実質的な根拠となっていた原子力発電所</p>

の再稼働が遅れているため、今後の動向は不透明です。」とあるが、これは原発の再稼働を期待していると受け取られかねない。言い換えるか、削除をお願いしたい。

【本藤座長】 現在までの意見・提案について事務局からどのような変更を報告書に加えることが考えられるか、回答をいただきたい。

【事務局（平井）】 方向性としては、いただいた意見を踏まえた記載を考えている。今後の方針として視野に入れておきたいことだが、報告書にどこまで細かく書くかを考えると、検討が必要。最終的な体裁は事務局に任せてほしい。

【本藤座長】 報告書について他に意見はあるか。

【三浦委員】 中長期の取り組みを検討していくうえで、具体的な年数が示された方がよいのでは。

【事務局（平井）】 中長期については正直難しい。現在市は環境基本計画の見直し中であり、来年には地球温暖化対策地域推進計画の改定もある。これらは10年間の計画であり、一つの目安になるのでは。

【今井委員】 この検討会では頻繁に出た「八王子らしさ」という言葉にあるように、この地域で再生可能エネルギーを推進していく要素、起爆剤となるアイデアを掘り出したいと考えていたが、報告書にはそういった記載が全くない。次にこういった検討会があれば、是非とも「八王子らしさ」が見える、起爆剤となるものを検討したい。

【白井副座長】 再生可能エネルギーをどのように推進していくかという基本的な方針、いわば「八王子方式」が報告書では示されていない。前年は記載があったが、今年は削られている。また、導入する再生可能エネルギーの種類について記載があるが、これは説明でしかない。1つの節を立てて、方針を打ち出していく必要があるのでは。

【奥田委員】 先ほどの意見書に付け加えたいが、屋根貸しの手法については今井委員などもよく言及されており、検討会の中では異議は出ていなかった。中期的な取り組みとするのではなく、来年度からでも取り組めるのでは。まず来年の取り組みとして、屋根貸しを積極的に呼びかけるという形もいいのでは。

【中島委員】 起爆剤となるものは何か欲しいという気持ちはある。推進体制など、今後の話になってくるのかもしれないが、予算や、部署を跨ぐことの制約について言及し、そういったものを踏まえて中長期的に取り組める組織を構築していくことを明記してほしい。

【本藤座長】 今からできること、できないことを明確にしたい。1点目としては、奥田・三浦両委員からいただいた意見のうち、「考え方・方向性」の提案にあった①②③のうち、②③については必ず入れるべき。検討会の目的は「方向性を決める」ことであって、報告書の初めに検討会が打ち出す方向性として「八王子らしさ」、そして「市民参加」を明記するべきだろう。その方向性をきちんと書いて、その中に長池公園があると位置づけるべきでは。2点目は表現の問題かもしれないが、奥田委員からあった屋根貸しについて。屋根貸しの「呼びかけ」ならば、「実施する」と言えなくても推進を考えれば記載は可能なのでは。検討会の成果としては長池公園の取り組みだけでは足りないのかもしれないが、中島委員の指摘にあったように、今後も起爆剤となる方式を検討していくことが必要であると明記するべき。また、三浦委員からあった、原発に関する表現はしっかりと検討すべき。

【三浦委員】 八王子市を再生可能エネルギーのまちにしていくという意気込みを報告書では表現したい。

【本藤座長】 そこに関してはぜひ事務局に努力していただきたいところ。報告書のようなものに情熱を表現しすぎることは全体の balan

スを考えると難しいが、うまく熱意を持ち込めるのならばそれはぜひやっていただきたい。

【富永委員】 せめて「八王子らしさ」に対する意欲を見せてほしい。多様な空間があるのが八王子市であり、諸要素を組み合わせる再生可能エネルギーを推進していくのならば、それは八王子らしさであるといえる。そういった八王子市が持つ可能性を明記してもいいのでは。原発に関する記述は、原発に関する部分を削除し、「不安定な部分があるので、今後の動向は不透明」といったニュートラルな表現を用いればよいのでは。

【本藤座長】 報告書の中に、八王子市の特性があまり書かれていない。「八王子の特性を活かして」再生可能エネルギーを推進していくということは表現しておくべき。具体的にどうするのかを記述することは難しいかもしれないが、八王子市の特性をしっかりと明記しなければ、他の市の報告書だと言われてもわからないものになりかねない。八王子市の特性を示すことは、今後の取り組みの中に「八王子らしさ」を表現していくことにもつながるのではないだろうか。

【富永委員】 八王子ビジョン 2022 の策定にも参加したが、その過程で行った市民に対するアンケートで、八王子市民の9割がこのまちに住み続けたいと考えていることがわかった。その理由の最たるものが、緑が多いこと。この報告書でもその点に再度言及し、方向性を示したい。

【白井副座長】 「八王子らしさ」の話として、エネルギーなどの資源だけでなく、人的資源や地域力を強調してほしい。八王子市は温暖化防止センターを設置するなど、省エネ普及啓発に頑張ってきたというイメージを私自身持っている。また、各地域内を単位として住民参加の方式が形成されていること、併せて普及啓発の体制があること。そういった“資源”は、再生可能エネルギーの導入では大きな役割を果たす。

他には、大学のまちなので、大学をより活かすということを含め込んでよいと思う。大学に再生可能エネルギーを導入してもいいし、大学の人的資源をもっと取り込んでいくなどのやり方がある。

【富永委員】 明確な数字を持っていないが、八王子市は大学だけでなく、福祉団体も多くある。福祉の人たちが自立するために再生可能エネルギーを導入し、経済的に独立するモデルを形成すれば、八王子らしさというものになっていくのでは。

【本藤座長】 報告書案に記載された部分については、ここまでの議論でまとめたいと思う。では次に長池公園についての具体的なプロトタイプを検討したい。

【今井委員】 太陽光ではなく、BDF に関する取り組みについて紹介したい。某企業では廃油を1つの機械で精製し、そのまま燃料として活用するSVO方式の機械を開発した。廃食油の活用はこれまで設備・人件費が高コストで導入が進まなかったが、現在はこういった方式もある。

【本藤座長】 いきなり大々的にやるのは難しい。見せ方のアイデアも必要。

【栗田委員】 今まで夢を語ってきたと思っている。予算も気にせず話ができた。これがいざ具現化するとなると、現実に直面し、話がしぼんでいくことが多い。

今回の報告書は総花的なものになっているが、実際の推進を考えるとこの後が非常に心配。推進組織の受け皿の案として温暖化防止センターの話も出たが、センターは十分なキャパシティがあるとは言えな

い。専門的な技術やノウハウ、そして意欲が必要。現状、今後の展開があまり見えないことが不安。

【白井副座長】 推進組織の検討課題をまだ書いていない。そこに何を残していくのかということだが、まず短期的に取り組むのは長池公園。それに加えて中期の計画を具現化していくことが重要な取り組みとなる。温暖化防止センターの役割かもしれないが、たとえば住宅の太陽光の爆発的な普及を目指していくといったような、普及啓発をどのようにやっていくか。

長池公園については、新しく導入するなら何か、という点に言及しているが、今あるものをどう活用していくのかという点にも注目すべき。今あるものでも工夫すれば普及啓発に大きな役割を果たせる。今あるものからスタートするということも考えるべきでは。

【中島委員】 推進体制について。縦割りが障害となっている場合、それを解消してどのように推進していくか。各課が一緒になって検討していけばできることもきっとあるはず。今は架空でもいいが、理想像を打ち出すことをぜひやってほしい。

【本藤座長】 「できない」と書いてしまうと、いつまでたってもできない。市民に中島委員がおっしゃったような問題があると認識してもらうためにも、「こうすればできる」ということを事務局は言及してほしい。

【富永委員】 推進体制、市民協働の時代なので、行政と市民（産学・福祉）の意思として10～20年貫き通すビジョンを示したい。ハードとソフト、それぞれに人材が必要。具体的な組織を提示することは難しいかもしれないが、真ん中に一本の柱を立てて、官民連携で推進するという考え方は記載できるのでは。

【本藤座長】 推進母体のイメージをできるだけ提示する必要があると思うが、事務局は可能だろうか。

【事務局（平井）】 冒頭の話もそうだったが、どこまで細かく書くかということに行き着く。エッセンスを書いておけばある程度は網羅できる。検討会の立ち位置として、市の方針を決めていく上での提言となるので、「こういう話が出ていた」という意味で、報告書の中に記載していくことは可能なのでは。

【奥田委員】 細かく書く、ではなく、具体的に書くことが必要なのでは。具体的なイメージが見えるようにしてほしい。

長池公園の取り組みについて具体的な提案が出ているが、これをやる場合、「市役所のこの課が必要」といったことを記述すれば具体的に becoming。行政だけでなく、日常的に市民からの意見を吸い上げる体制を提案してはどうか。今後推進組織が構築された際、そこにいつでも市民が意見を投げかけられる仕組みを作っておけば、市民の認識も高まっていくのでは。中島委員の案はとても良いと思う反面、長池公園だけでなく、おおりの家などでもこの中のいくつかは取り組めるのではと感じる。高尾の里も設計が出来上がっているとは言いが、何か導入できるものがあるのではという提言、具体的なイメージを提示してほしい。現状の報告書案には具体性がない。抽象論に終始してほしくない。

【今井委員】 「みんなの意見をまとめました」という報告書だが、じゃあ次どうするのか。今後は庁内検討会で考えていくことになるが、そこに我々は参加できないのか。これまでとは全く違った形で議論されてしまうのではないか。これまでの議論を踏まえて、今後細かく、具体的にどうしていくのかを検討する場を作してほしい。この検討会は具体的な方策を決める場ではなかった。具体的な方策を決める

場に参加できるのならば手弁当でも参加する。庁内ですべて決めてほしくない。

【事務局（佐藤）】 再生可能エネルギーをどう普及させていくのかを考えた場合、幅広く推進していくことが前提となる。公共施設に限ればやはり庁内での議論になってしまうが、民間施設も関わるとなれば、市民の参加は必須。なので、庁内の議論に参加すれば何とかなるというのは少し違うのではないかなと思う。

【三浦委員】 一番心配しているのは、今まで話し合ってきたことがきちんと継続されていくのかということ。推進体制の話になるが、先ほど中長期の話を見せてもらったように、これまでの検討会の意見を踏まえて、継続的にやってもらえるのか懸念を抱いている。

【本藤座長】 最後まで難しい議論になっているが、正しい答えはない、どこで折り合いをつけていくか。1つキーワードを挙げるとすれば「具体性」。イメージを具体的に提示すること、場所を具体的に設定することが考えられる。後者は難しいかもしれないが、前者はぜひ提示してほしい。座長として言っているか迷うが、最後なので言うと、「行政にやってもらう」という観点からだけではなく「自ら行う」という観点からも考えていただければと思う。ここにいるみなさんは主導して行動できる人たち。みなさんが具体的に行動するなかで、障害は市と協力して取り除いていく。住民主導で物事を考えたり、行動を起こしたりしていくことが重要であり、市にはそれをサポートする場を提供してほしい。

【白井副座長】 たとえば市内で地区や環境市民会議のエリアで割ってみれば、よりローカルに、かつ密接に小さな単位で取り組めるかもしれない。八王子市のスケールの中で、屋根貸しなど大きなスケールで取り組むことを考える一方で、小さなコミュニティで密接にやっていくことなども考えていったらどうか。

【今井委員】 八王子市には大学等が23ある。各大学に環境関係の学部を設けている。たとえば大学のプロジェクトとして、市内の大学をつなげた会議・コミュニティを構築できないか。そこには企業も参加するといいい。学生のアイデアをもとに、大学の敷地と企業の資金を活用すれば、八王子市にしかない大学発の大きな動きを生み出せるのでは。なおかつそれは環境学習に直接つながっていく。大学がこれだけあるのなら、活用しない手はない。

【事務局（平井）】 温暖化防止センターでは、市内の大学から紹介してもらった人材や、企業人が入った部会が行われている。

【今井委員】 もっと大きな組織を作れないか、市内にうねりをもたらせるような。

【栗田委員】 そういった場所で大学の方にお話を伺う機会もあるが、大学はエネルギーに非常に無関心なところのようだ。逆に言えば、大学は狙い目だといえるかもしれない。

【奥田委員】 大学との連携という話は以前の検討会でも出た。夢の話で言えば、大学を取り込んでアイデアを募り、いいアイデアには賞金を出すというやり方もありえるかもしれない。

【本藤座長】 場を設ければ様々なアイデアは出てくる。ブレインストーミングをする場を設定することも大事。それとはまた別に具体的な話をする場も必要。それらは分けなくてはいけない。その中でも前者を市民が設置し、それを市がサポートしていくことは非常に重要だと思う。推進組織とはまた別物かもしれないが、そういったものがあれば「八王子らしさ」ではある。住民主導でそこに市が参加していく組織を設けることを報告書に記載することが、検討会の参加者の意思

を汲み取ることになるのではないだろうか。

【事務局（佐藤）】 シレンマを感じながら話を伺っていた。行政が作っている計画を推進していく際に、非行政で進めていくという方法に不安がある。市の使命としては再生可能エネルギーをどう普及していくか。これを考える上で、市は市で取り組むことがあるし、市民のみなさんに進めていっていただけるものもある。それを我々がどのようにサポートができるのか。「市はこういうことをしてほしい」ということがあれば我々も非常にありがたい。いただいた意見を基に、行政的な言い方で申し訳ないが、うまくまとめさせていただきたい。

(2) その他

【事務局（平井）】 議事の内容が終わり、これにて今年の11月から開催してきた再生可能エネルギー導入検討会は終了となる。最後までたくさん意見を頂き感謝している。本藤先生、座長をお勤めいただきありがとうございました。最終の報告書は事務局で調整させていただき、完成したものについて9月にみなさまにお届けする。最後になるが、検討会に参加しての感想をみなさまからいただきたい。なお、本日欠席の委員の方々からも言葉を頂いている。

【事務局（谷勝） 安藤委員の代読】 検討会で示した方向がフォローされ、具体化されていくことが望まれる。各位が一貫して八王子らしさを追求したいと考えたこと、委員各位が率直な意見を交わす検討会に驚きもあったが、予定調和でない会に良さを感じた。

【事務局（谷勝） 遠藤委員の代読】 この検討会に参加させていただいたことに感謝したい。この報告書で示された意見が実際に市の再生可能エネルギー導入方針に反映されることを祈る。

【栗田委員】 市民会議の代表、温暖化防止センターに携わった人間として参加した。今まで長くやりすぎたのかもしれないが、非常に今後に懐疑的。温暖化防止センターの計画でも、策定した人間はその後実際の活動に携わっていない。ぜひ、ここに携わった方は、これが終わりではなく始まりであると考えてほしい。ここで示された熱い思いが、実際に継続して携わるという形で続いていくことを願う。

【富永委員】 多くのことを学べた。NPO 活動をするなかで、人としての風土ということを考えてきた。外部有識者や事業者、人事異動にさらされる市の職員は「風の人」だが、それぞれの土地に住む人間が主体性と強い気持ちを持って取り組むことで、豊かな風が吹くのだと思っている。地域で活動する人間として、これがまたスタートだと思っ取り組んでいきたい。

【奥田委員】 専門家ではない一市民であり、夢を語りたと思っていった。そして今日の後半の話は今までで一番楽しかった。最初の頃の検討会では煮え切らない思いも抱いていた。しかし、再生可能エネルギーを市内でなんとしても推進し、自然エネルギーの社会を作っていくきたい。そして八王子市に誇れるまちになってほしいという思いがある。その中で、市の人や専門家の方とお話しできたことは非常に有益であった。今後はその夢を実現するために微力ながらも取り組んでいきたい。

【三浦委員】 原発の事故があったことで、再生可能エネルギーへの意識が高まった。そういった中で検討会の案内を見かけて、一市民である自分もこういった思いを持っていると表したくて参加した。専門知識のない一市民だが、そういう立場だからこそ夢を語れば良いと思っっていたし、参加する中で多くのことを学べた。今後は身近な人たちとも「八王子市が将来こんなふうになったらいい」ということを語り

合っていききたい。

【今井委員】 今後、今日話したような夢を語る場があれば嬉しいし、その中で何かを発見できるかもしれない。行政を動かすのは難しいなとも思ったが、やはり行政の力が絶対に必要。例えば、中国はガソリンのバイクを廃止して電動バイクのみになっている都市がある。特に住民の環境に対する意識は高くないが、規制がそれを実現している。そういった意味で良い規制が必要だと思う。八王子市に有益な法案や規制を作れるのなら、住民の一人としてこれからも働きかけていきたい。

【中島委員】 私は23区内に住んでいるが、みなさんの八王子市への熱い思いを感じて、私も本腰を入れて八王子市内で取り組まなくてはと思っている。品川区の小学校で環境学習の授業を続けており、ここ数年はエコスクールから家庭の省エネルギーへと展開している。可能であれば今後は八王子市の教育委員会にも参画していきたい。できることは率先して協力し、参加していきたい。他の自治体にも持ち込めるような、良いモデルを作っていきたい。

【白井副座長】 結果的に最後はいい話ができたとと思う。「風の人」でありながら、専門家として役に立ったかどうかかわからないが楽しかった。環境問題への取り組みはコミュニティと切り離せない。スマートシティの実現には、ハード・ソフト・ヒューマンが重要。その中でも、ヒューマンウェア、つまり人がネットワークを作り、スマートシティを実現していく。この検討会が最終的にヒューマンウェアを重視する議論に向かっていったことは良いことだと思う。

【本藤座長】 色んな観点があると改めて実感したし、地域の人はそれぞれが地域に対する熱い思いと深い見識を持っている。この検討会は予定調和ではないものであったと思う。こういった検討会はなかなか見あたらない。これが「八王子らしさ」のひとつかもしれない。お願いとしては、一市民としてだけでなく、自分以外の市民の視点、つまり公の目も持ってこれから取り組んでほしい。そして、それを踏まえて実際に行動してほしいし、その際は市にはサポートをお願いしたい。私は再生可能エネルギーがただ拡散すればいいとは思っていない。そのプロセスが最も重要だと思っている。従来のやり方で導入を進めていこうとすると、どれだけ技術が発展しても、結果は集中型の電源と似たり寄ったりのものになりかねない。分散型の電源は分権型の電源ともいう。その電源の入れ方、プロセスに重点を置いていきたいと常に思っている。

これまで技術面の評価をやってきたが、社会を変えるのは技術ではなく、それを使う人であると思っている。なので、それをどう使うかに思いを巡らせてほしい。

【事務局（佐藤）】 長きに渡りご参加いただき、委員のみなさま、そして座長を務めていただいた本藤先生には感謝申し上げたい。今までいただいた意見をばねとして、「八王子らしさ」を具現化していきたい。みなさんの熱い思いを受け止めて今後の施策に活かしていきたい。

【事務局（諸角）】 4月に部長を拝任して今日までの議論を聞く中で、もっと真剣に勉強していかなくてはという思いを持った。本日までみなさまの議論に感謝申し上げたい。地球温暖化は進んでおり、原発事故以降、エネルギー問題への関心も大きく高まっている。来年には地球温暖化対策地域推進計画の改定を予定しており、今回の検討会を踏まえ、新たな取り組みを推進していきたい。先日長池公園で、八王子市が持つ多様性と可能性を改めて認識した。今後は検討内容を

	踏まえ、市民のみなさまと協力して、できること、できる場所から少しずつでも取り組み、持続可能なまちとは何なのかということをお願いしていきたい。 以上
会議録署名人	平成 25 年 10 月 8 日 署 名 本 藤 祐 樹